

Milford Track Report

栃木県連は1976年4月に4団体70名で発足し、2016年に40周年を迎えたのを機に、記念事業として 栃木県内40座登頂 海外山行（コーセル・クンジュ6400m）とミルフォード・トラックのトレッキング 記念誌（さらなる高みを目指して66頁版） 記念レセプション（宇都宮ニューみくら、3月12日）が行なわれ、本レポートはこの海外山行、ニュージーランドのトレッキング取り上げたものです。2015年5月に募集を開始したが、時期が旧正月と重なったことから韓国・中国からの申し込み殺到、すぐに定員（入山枠50人定員）が埋まってしまった。この関係で5月末には6名で募集を締め切ったため、参加を検討していた方に対しては申し訳ないと思っている。結果、マロニエ・ハイキングクラブから女性4名、野木山想会から男性2名の6名で実施された。以下はCLよしさん 次男ちゃん 和子ちゃん 和枝ちゃん 充子ちゃん 美枝子ちゃんの記録です。



ミルフォード・トレッキングは個人ウォークとガイドウォークの2種類がある。個人ウォークは山小屋泊まりとなり、個人で食料や寝袋を持参しなければならない。しかし マットレス付きベッド、水洗トイレ、ガスコンロは備えてあるが、健脚者向けかなと思う。トラック出入り口までの交通手段も自分達で予約が必要だ。それに較べガイドウォークはガイドが随行し、食事、寝具、温水シャワー付き、ロッジの部屋は基本男女別の相部屋だ。個室もある。送迎バス付ツアーでUltimate Hikes社が一手に予約受付・運営を行っている。気になるのは値段だろうが、このトップシーズンで個人とガイドの料金差は6 - 7倍あるようだ。ホテルが移動している感じで快適この上ない。

トレッキング第1日 2月7日(日) 快晴

《コース・タイム》 (バス移動・船・徒歩)

ホテル出発(8:20 徒歩)・・・Ultimate Hike社(8:30~8:55)・・・専用バス出発(9時)
・・・ランチ(11:30~12:20)バス移動・・・テアナウ湖船着き場着(12:50)・・・乗船(13:00)
下船(14:10)～(徒歩)グレートワーフ(14:15)～ロッジ・グレートハウス到着(14:35)

一旦急速後全員で記念写真(15:00) それからネイチャーウォークに出発(15:20~16:30)
夕食(18:00~19:00) 翌日のオリエンテーリング・自己紹介タイム(19:00~20:30)

《初日の概要》

徒歩にてホテルから Ultimate Hike 社(ステーションビル)に向け出発、10分で到着。昨日は夕方5時から事前説明会があったが、2月6日は祝日でクイーンズタウンの目抜き通りで羊追い祭りが繰り広げられて通行不可、説明会場に遅れて参加したので、今朝は予定より早く到着した。何でも「ワイタンギ・デー」という祝日で、政府とマオリ族との平和のための条約締結がワイタンギという町で結ばれた日、建国記念日といわれているそうです。このツアーは日本8名、韓国22名、メキシコ2名、イギリス1名、ハワイ4名、アメリカ12名の合計49名、ガイド4名(韓国人、オーストラリア、スイスと国際色豊かだ)の構成だ。残念ながら日本人ガイドはいませんでした。



目抜き通りの羊追い スタート地点集合



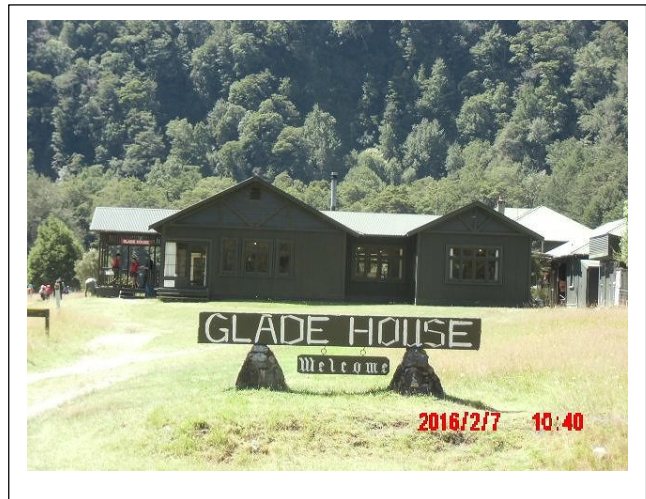
開拓者マッキンノンが遭難した場所 遭難碑

専用の大型バスに乗りテアナウ湖に向かう。ランチは、バイキング形式で数種類のサンドイッチ、フルーツ、キッシュ等、盛り沢山で食べ過ぎに注意!! 船着場はテ・アナウダス港で乗船する。船からミルフォード・トラック最初のガイドとなったクインティン・マッキノンの遭難の地(碑)が見えました。マッキノンはクリントン渓谷を遡り、アーサー渓谷へ抜ける登山道の探索、開削を依頼されました。マッキノンとアーネット・ミッチェルは一ヶ月以上をかけて谷の源流部を探索しますが、テントが洪水で流されてしまいます。1885年(明治21年)10月16日彼らはマッキノン峠を発見し、峠を越えることに成功したのです。そしてミルフォード・トラックの最初のガイドとなったのです。

下船時は棧橋でミルフォード・トラックに望ましくないものを持ち込ませない為、ブーツの殺菌消毒がありました。グレートワーフ・ここから【世界で一番美しい散歩道】と言われるミルフォード・トラックのトレッキングの始まりです。

とはいってもたった1.2km歩いて、今夜のロッジ・グレートハウスに到着。荷物を部屋に置き、ロッジの前で全員での記念撮影後、ガイドのスイス人のウイリアムさんの案内でネイチャーウォークに出かけ日本では見ることのない植物に出会いました。

自己紹介タイムでは、JAPAN チームは、音楽に合わせジェンカを踊り好評を博しました。(充子記)



トレッキング第2日目 8日(月) 快晴

《コース・タイム》グレードハウス(8:30 出発)・・・湿原エリア(9:15)・・・ヒレレ滝シェルター
ランチ(12:00~12:50)・・・デッドレイク分岐(13:00)・・・ヒデンレイク(13:25)・・・プレリーレ
イク(14:00)・・・ポンポローナ・ロッジ(15:30)

《2日目の概要》

今日は晴れ、ウォーミング・ゆる体操をして、さあ出発だ。ミルフォード・トラックはその絶景を称え長年にわたり「世界で最も美しい散歩道」と形容されているが、散歩道とは言い過ぎかもね。クリントン川に架かる吊り橋を渡り赤ブナの原生林へ、鳥の鳴き声が聞こえ美しい川の流れ、メイン

トラックから免れて枝道を歩いていくとそこには湿原エリアがあり、小さな食虫植物モウセンゴケが自生している。土壌の栄養分が乏しいため、昆虫を捕食して栄養分を補っているウエットランドが一面に自生していた。



モウセンゴケ（赤色）が繁茂していた



ネイチャーウオーク ロッジ付近の沢でのんびり

崖崩れにより川が堰き止められて多くのブナの木が沈んだ状態になっていることからデッドレイク (dead lake)と名づけられた。平坦な道が続きプレイリー平原に到着。万年雪を冠する優美な山々、豪快に流れ落ちるプレイリー滝は圧巻でした。レイクには泳ぐ人もいた。直径10cmぐらい、長さ50cm~1mぐらいの大ウナギが歓迎してくれた。それを見た我々はディナーディナーと叫んだ。赤ブナの原生林を通り抜ける上り坂にさしかかると、目の前の川が増水して渡渉できないときに待機する掘っ立て小屋（バスストップシェルター）に到着。そこは跡形もなく雪崩の凄まじさの痕跡が、、、岩や石が散乱しているゴースト通過。ポンポローナロッジまでは10分ほどで到着。入り口にはジュースやオレンジが用意されていた。クールダウンをしてロッジの中へ。（和枝記）



13時過ぎに樹林帯から一転視界が広がる



ヒレレ滝 迫力ある水量?? 滝の多いこと

トレッキング第3日目 9日（火）曇り

《3日目の概要》

ポンポローナ・ロッジを7時30分に軽いストレッチをして出発。ミルフォード・トラック最大のハイライトであるマッキンノン峠を目指します。今日の予定は、歩行距離約15km、最高地点であるマッキンノン記念碑（開拓記念碑）まで、標高差600mのジグザグな登り、野鳥のさえざりとともに歩く。途中に雨に降られサザンアルプスの展望を見ることは出来なかったが、頂上付近でガイドによる暖かいココアのサービスは、冷えた体には嬉しかった。

（峠の）パスハット到着11時35分から12時25分までランチ休憩。個人ウォークとガイドウォークは屋根は同じでも入り口のドアも異なり、休む部屋も違っていた。シダが繁茂した苔の森を抜け

今日の泊まるクインティン・ロッジへ。ロッジに着く頃にはすっかり雨も上がり日差しも出てきました。

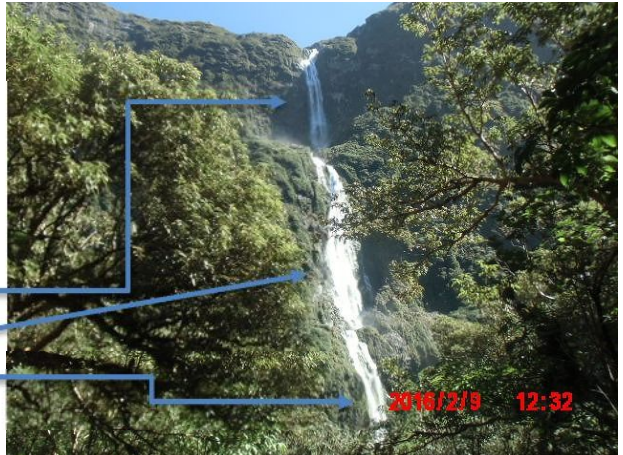


マッキンノン碑 イメージ図



上は万年雪 雨が降った後に滝となる様子
9時は4時間の時差なので11時22分

ロッジに14時25分到着、ロッジにチェックイン後、荷物を置いて、15時にどうしても見ておきたサザーランド滝に出発した。サザーランド滝はロッジから往復1時間30分のところにある世界5位の落差580mある豪快な滝だ。滝を真下から見上げマイナスイオン一杯浴びて癒されました。(和子記)



トレッキング第4日目 10日(水)快晴

《コース・タイム》ロッジ出発(7:30)・・・ダンプリングハット(8:25)・・・マックイ滝(11:00)・・・ベルロック・・・ジャイアンツゲート滝(13:00)・・・サンドフライ・ポイント(15:10)・・・マイタピーク・ロッジ着(15:40) [ボート&ワゴン車にて移動 15:25 - 15:40]

《4日目の概要》

今日は平坦な道を2.1km アーサー渓谷を抜けアダ湖畔を通りハイキング最終地サンドフライポイントまでのコース。吊橋もいくつかあるがどこもしっかりしていて怖くない。



土砂崩の箇所をソロソロ通過



何度も渡るタカーイ高い吊橋



自然を満喫して歩くトレック

昔発生した地滑り跡を通り、ジャイアンツゲート手前でランチ、鳥のキーウィが足元まで何度もやって来てくれる。滝は水量も豊富でおいしく、しっかり日焼けを楽しんでいる参加者を見る。自然と関わっている時間を大切に楽しむって大事ですね。他にも素敵なビューポイントが何か所もあり果物を食べたりしながらゆっくり時間を取って進む。最終地点のサンドフライポイントで用意されているおやつを頂きボートで移動。



マイタ ピークの絶景を満喫。ロッジに着いて最後の夕食を4日間サポートしてくれたガイドのひとり、“エロイス”ちゃんといっしょに食べ、その後、完歩証授与式がありました。英語が分からないので何か言ってくれているのですが残念です。1人1人名前を呼ばれてガイドの4人とハグ、みんなニコニコ！うれしいけれどお別れは少し寂しい式でした。22時から星と蛍を観にナイトハイキングに行き、真っ暗なのではぐれない様に腕を組んで歩きました。30分弱でしたが素敵な夜になりました。部屋戻り終了。毎日が新鮮でここに来たことに感謝します。(美枝子記)



マイタピーク・ロッジが最後の宿泊場所



窓からマイタピークが見える会場で授与式



トレッキング第5日目(11日(木)晴)はクルージングとバスでQueenstownに戻るだけです。



イルカ



ラム オイシクッ!